

175.がん薬物療法チームにおける管理栄養士の介入効果に関する研究

研究の概要

がん患者の治療支援として管理栄養士の介入は一定の効果を得てきました。加えて、NSTなど栄養サポートに特化したチーム医療においても効果を示すことができている。さらに、「がん病態栄養専門管理栄養士」なる管理栄養士の認定資格が診療報酬としても認められています。しかし、チームにおける「がん病態栄養専門管理栄養士」の効果についての報告は見られていません。今回、がん拠点病院において、抗がん剤治療の支援を目的としたがん薬物療法チームにおける「がん病態栄養専門管理栄養士」の効果を示すことを目的にしました。つまり、栄養介入の目的、管理栄養士介入がエネルギーたんぱく質摂取量に及ぼす影響、身体所見や血液データに及ぼす影響を検証することとしました。

研究の目的と方法

本研究の目的は、がん薬物療法チームにおける管理栄養士の介入効果について検討することです。日常診療で得られた臨床データ（年齢、性別、身体所見や生化学検査など）を電子カルテから集計・統計分析を行う後ろ向き研究です。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください

調査する内容

本研究は、令和3年4月1日～令和4年3月31日の期間中、国立病院機構熊本医療センターがん薬物療法チームが介入し、栄養食事指導を実施した患者さんを対象としています。新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究終了後の収集したデータは、鍵をかけたファイルにて5年間保管ののち、破棄いたします。

調査期間

研究対象期間：令和3年 4月 1日～令和 4年 3月 31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和 6年 3月 31日まで

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

電話：096-353-6501